

(3) 張網類

100 底層定置網〈平成13年〉

調査地 福江市長手

1) 漁具

(1) 側張図

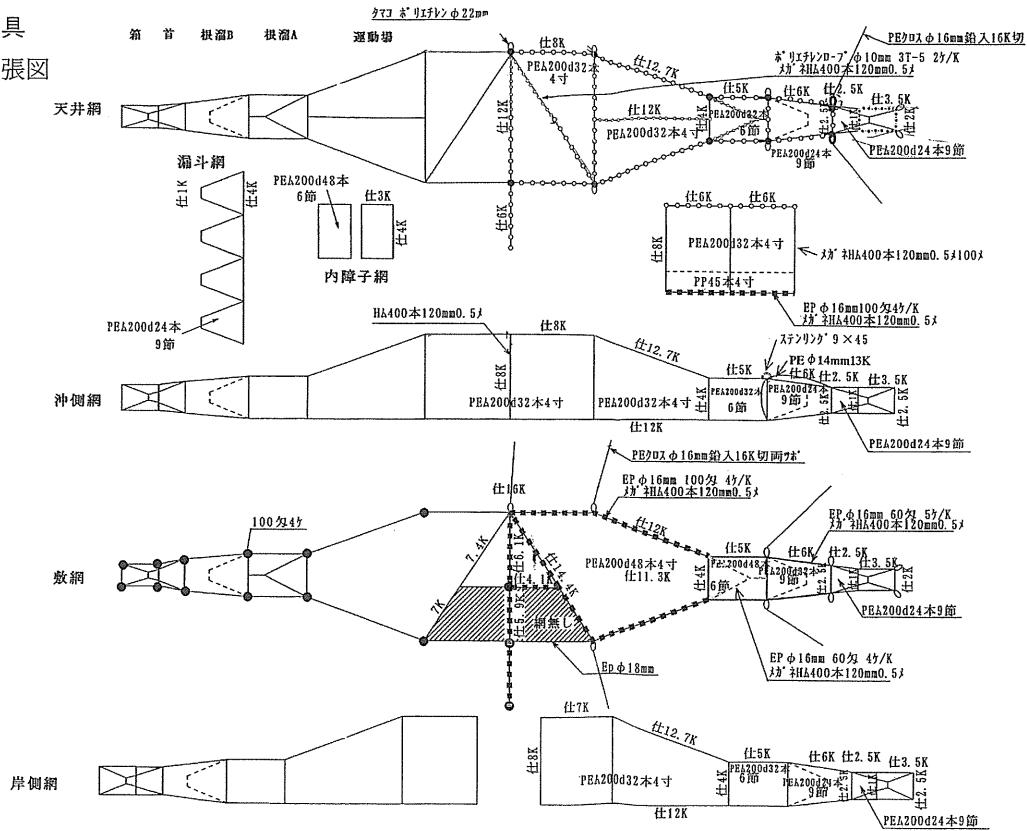


図100 運動場

101 アンコウ網〈昭和63年〉

調査地 布津町潮入崎

沿革 古くから伝承された漁法で、漁具漁法はほとんど改良されていない。最盛期の大正初期(1912年頃)には韓国西沿岸まで出漁しており、韓国のアンコウ網漁業の基礎となった。近年張り竹がFRP製に、アンカーが樫の木からステンレス製に変わった。網地は戦後(昭和20年(1945年)以降)、化繊糸が普及するようになってからナイロンとクレモナを使用するようになったが、近年魚捕部はポリエチレンに変わった。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

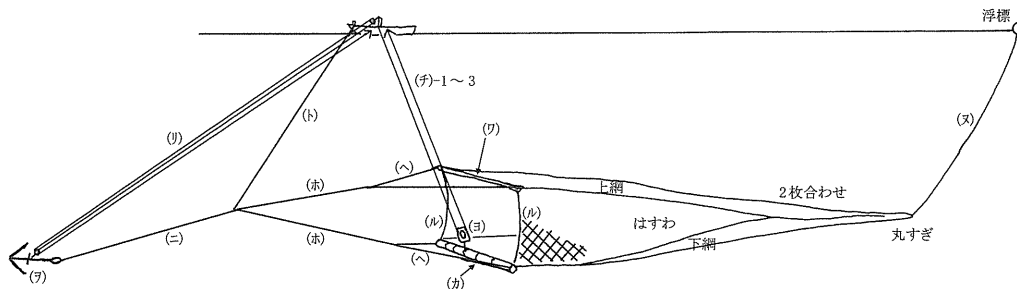


図101-1 操業見取図

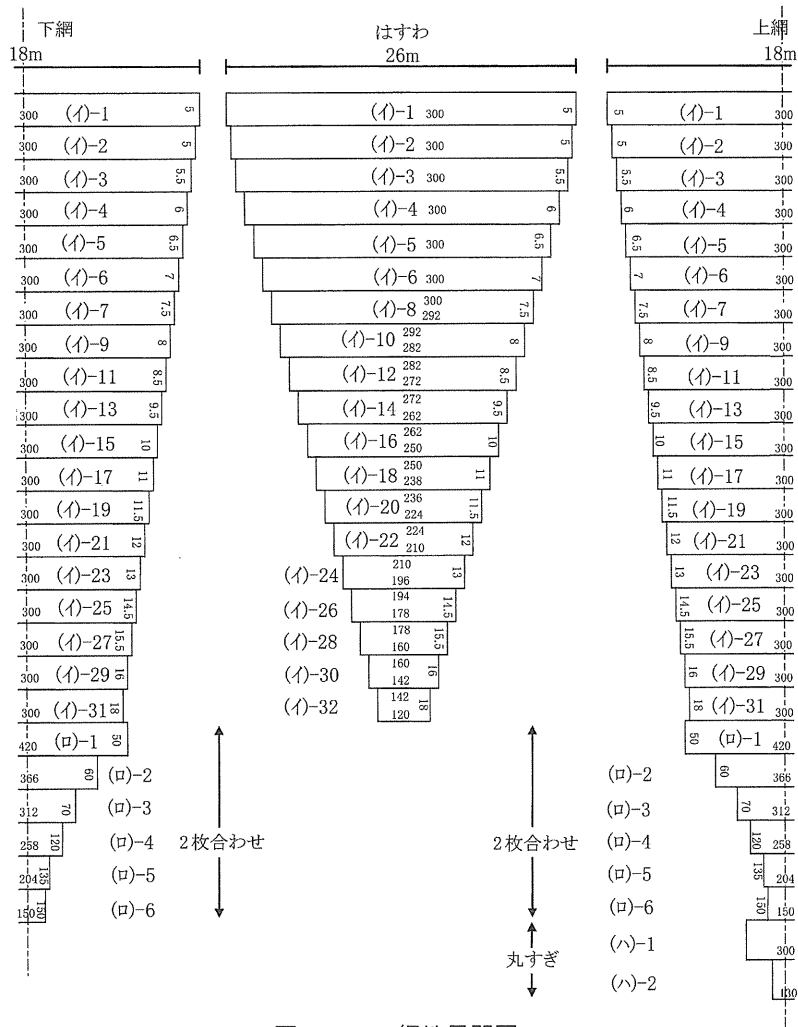


図101-2 網地展開図

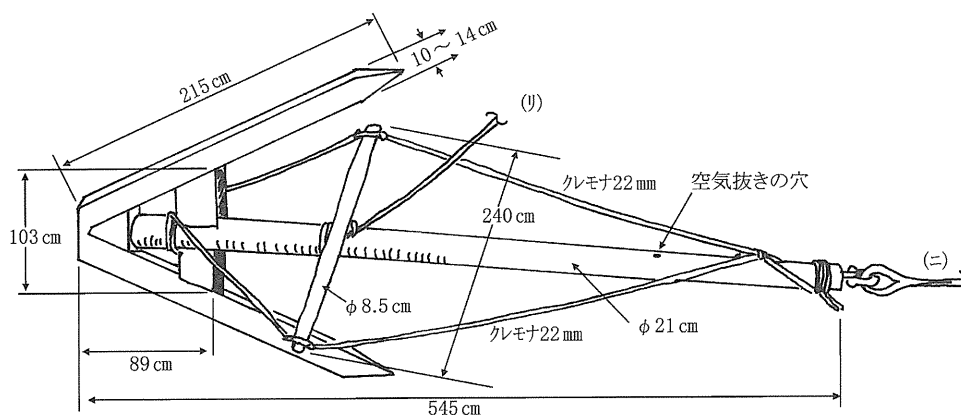


図101-3 錨

(2) 漁具仕様

表101 仕様表

(イ) 網地

符号	名称	材質	太さ	目合	掛目	長さ	数量	備考
(イ)-1	身網大1	ナイロン2子撚	40, 30, 24本	305mm	5.0目	91.50m (300目)	4	身網大1~16は手すきで編網する。
(イ)-2	身網大2	ナイロン	20, 16本	284mm	5.0目	85.20m (300目)	4	
(イ)-3	身網大3	ナイロン	14本	264mm	5.5目	79.20m (300目)	4	
(イ)-4	身網1	ナイロン	12本	239mm	6.0目	71.70m (300目)	4	
(イ)-5	身網2	ナイロン	12本	234mm	6.5目	70.20m (300目)	4	
(イ)-6	身網3	ナイロン	10本	215mm	7.0目	64.50m (300目)	4	
(イ)-7	身網4	ナイロン	10本	201mm	7.5目	60.30m (300目)	2	

符号	名称	材質	太さ	目合	掛目	長さ	数量	備考	
(イ)-8	身網 4	ナイロン	10本	201mm	7.5目	60.30/58.69m (300/292目)	2	身網 4～16の脇網部分は縦目1.5目おきに横目の両端を1目ずつ減ずるのを50回、2目おきに横目を減ずるのを40回行いながら編網する。	
(イ)-9	身網 5	ナイロン	8本	186mm	8.0目	55.80m (300目)	2		
(イ)-10	身網 5	ナイロン	8本	186mm	8.0目	54.31/52.45m (292/282目)	2		
(イ)-11	身網 6	ナイロン	8本	177mm	8.5目	53.10m (300目)	2		
(イ)-12	身網 6	ナイロン	8本	177mm	8.5目	49.91/48.14m (282/272目)	2		
(イ)-13	身網 7	ナイロン	8本	167mm	9.5目	50.10m (300目)	2		
(イ)-14	身網 7	ナイロン	8本	167mm	9.5目	45.42/43.75m (272/262目)	2		
(イ)-15	身網 8	ナイロン	8本	150mm	10目	45.00m (300目)	2		
(イ)-16	身網 8	ナイロン	8本	150mm	10目	39.30/37.50m (262/250目)	2		
(イ)-17	身網 9	ナイロン	8本	143mm	11目	42.90m (300目)	2		
(イ)-18	身網 9	ナイロン	8本	143mm	11目	35.75/34.03m (250/238目)	2		
(イ)-19	身網 10	ナイロン	8本	132mm	11.5目	39.60m (300目)	2		
(イ)-20	身網 10	ナイロン	8本	132mm	11.5目	31.15/29.57m (236/224目)	2		
(イ)-21	身網 11	ナイロン	8本	126mm	12.0目	37.80m (300目)	2		
(イ)-22	身網 11	ナイロン	8本	126mm	12.0目	28.22/26.46m (224/210目)	2		
(イ)-23	身網 12	ナイロン	8本	114mm	13.0目	34.20m (300目)	2		
(イ)-24	身網 12	ナイロン	8本	114mm	13.0目	23.94/22.34m (210/196目)	2		
(イ)-25	身網 13	ナイロン	8本	107mm	14.5目	32.10m (300目)	2		
(イ)-26	身網 13	ナイロン	8本	107mm	14.5目	20.76/19.05m (194/178目)	2		
(イ)-27	身網 14	ナイロン	8本	101mm	15.5目	30.30m (300目)	2		
(イ)-28	身網 14	ナイロン	8本	101mm	15.5目	17.98/16.16m (178/160目)	2		
(イ)-29	身網 15	ナイロン	8本	92mm	16.0目	27.60m (300目)	2		
(イ)-30	身網 15	ナイロン	8本	92mm	16.0目	14.72/13.06m (160/142目)	2		
(イ)-31	身網 16	ナイロン	8本	84mm	18.0目	25.20m (300目)	2		
(イ)-32	身網 16	ナイロン	8本	84mm	18.0目	11.93/10.08m (142/12目)	2		
(ロ)-1	魚捕 17	クレモナ	8本	6節	50.0目	25.45m (420目)	2		魚捕17～袋尻24は市販の網を使用する。
(ロ)-2	魚捕 18	クレモナ	8本	7節	60.0目	18.48m (366目)	2		
(ロ)-3	魚捕 19	クレモナ	10本	8節	70.0目	13.51m (312目)	2		
(ロ)-4	魚捕 20	クレモナ	10本	9節	120.0目	9.77m (258目)	2		
(ロ)-5	魚捕 21	クレモナ	12本	10節	135.0目	6.87m (204目)	2		
(ロ)-6	魚捕 22	クレモナ	12本	11節	150.0目	4.55m (150目)	2		
(ハ)-1	袋尻 23	クレモナ	14本	12節	適当	8.26m (300目)	1		
(ハ)-2	袋尻 24	クレモナ	15本	13節	適当	3.28m (130目)	1		

(ロ) 網類

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(ニ)	錨網	ワイヤー	12mm 100m	1	
(ホ)	股網(またがり)	クレモナ	24mm 135～150m	1	1本を折り返して、上下を同長として使用する。
(ヘ)	股網(四つの)	クレモナ	18mm 75m	2	1本を折り返して、上下を同長として使用する。
(ト)	かかり網(ふらせ)	クレモナ	24mm 135m	1	クレモナロープ24mmは網の股網→船のかかり網→揚網の網の順に使い回す。

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(チ)-1	揚網揚網 (なんば網)	クレモナ	24mm 135m	1	揚網の網は24, 21, 18mmの順で連結し、水深60～70mで合計300mとする。 24mm側を船に固定し、下の桁に付けた滑車を通して投揚網に用いる。
(チ)-2	揚網揚網 (なんば網)	クレモナ	21mm 75m	1	
(チ)-3	揚網揚網 (なんば網)	クレモナ	18mm 90m	1	
(リ)	揚錨用綱	クレモナ	18mm	1	錨の軸中央部に取り付けた滑車の先にロープを取り付け、船上の滑車、錨の滑車を順に通し、計3本で揚錨する。
(ヌ)	尻綱		水深の2倍	1	1端は浮標をつなぎ、海面に浮かせている。
(ハ)	縁綱	クレモナ	5.5～6mmを二重 26m	2	両端の1mは3本にする。

(イ) その他

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(ヲ)	錨	ステンレス	340kg 軸部0.21×0.21×5.45m, 空気抜きの穴あり 爪部0.3×0.14～0.1×2.15m ストック部 φ8.5cm×2.4m	1	爪の片側に油が充填してある。270kgのものもある。
(ヅ)	桁 (浮子竹)	FRP	φ148mm 両端は塞いであり中空にしている 18m	1	
(カ)	桁 (沈子間木)	FRP	φ114mm 18m	1	中央部に水中重量200kgの鋼棒を取り付けて、沈降力を増してある。
(コ)	滑車 (なんば)	木		1	

2) 漁法

風向・風速と強流時の流向を考慮して漁場を選定する。潮止まり時に漁場に到着し、アンカーを投入して船を固定する。潮が予定の方向に動き出すと、流れを船の真横に受けるようにアンカーロープを右舷側中央に固定する。左舷側に固定していた上下2本の張り竹を滑車ロープをゆるめて海面までおろし、魚捕部から投網する。網が張ったところで沈子方の張り竹に取り付けた引き上げ綱を徐々にゆるめる。網は沈下し、アンカーからあらかじめ張り竹に取り付けてあったロープで固定される。引き上げ綱を船に固定し、投網を終了する。アンカーロープの固定場所を舷側から船首へ変えて船を潮に立てる。網入れ時間は通常4時間であるが、クラゲの多い時期(春～秋)は1～1.5時間としている。

揚網にあつては、投網時と同様に流れを右舷側に受けるようにアンカーロープの固定位置を右舷側中央に変える。左舷側から沈子綱に取り付けた引き上げ綱をローラーで巻き上げ、浮子方の張り竹を水面まで浮き上がらせ、船首船尾に張り竹の滑車ロープをとり、手で巻き上げ舷側に張り竹を固定する。更に引き上げ綱を巻き上げて沈子方の張り竹を水面まで上げる。浮子方の張り竹と同様に滑車ロープで舷側まで引き上げ固定する。その後、袋網を船上に手で引き上げ、魚捕部を船上に取り込む。網固定用のロープとアンカーロープを巻き上げ、アンカーを右舷側に取込み、操業は終了する。

操業は1日3～4回行う。

3) 使用漁船および乗組員

5～8トン、2～3人乗り組み。

4) 漁期・漁場

漁期は周年で大潮前後の7～8日間を操業する。

漁場はエビ漁の場合で水深15mほどの海域、魚対象の場合はこれより深い海域である。

5) 漁獲物

タチウオ、マナガツオ、ナシフグ、グチ、エビなど。